

陽光

Vol.9
通巻 76号



「私のホームヘルプ利用法」ミーティングの実施

現在、光風会利用ユーザー55名中、居宅介護事業であるホームヘルプを利用しているのは、12名です。過去に利用していた3名を含めると、約四分の一が利用経験者です。

以前、「一人ではやる気にならないけれど、ヘルパーさんが来ると、掃除や料理をしようという気持ちになる」と、ユーザーが話していました。

体の不自由さからヘルパーを利用することの多い高齢者の場合、「足が動かないから掃除をしてもらいたい」といった動機から利用が始まります。精神障害者の場合は、「自分ではやる気にならないから、一緒にやってもらいたい」といった動機があるのだと知りました。

先日、市町村の福祉課の方から、「家族と同居している人は、家族が家事をすることが前提なので、今後は利用を検討してもらうことになる」と話がありました。利用していた人が、できなくなる可能性があります。

しかし、家族がいても、週一回ヘルパーと一緒に家事をすることで、生活のリズムをつくり、地域でのくらしを組み立てている人が在るのです。

普段の活動の中でホームヘルプについては話題になりますが、改めてそれぞれの利用法等を確認するために、ミーティングを企画しました。

(川島 麻子 生活支援センター「風 (FOO)」施設長)

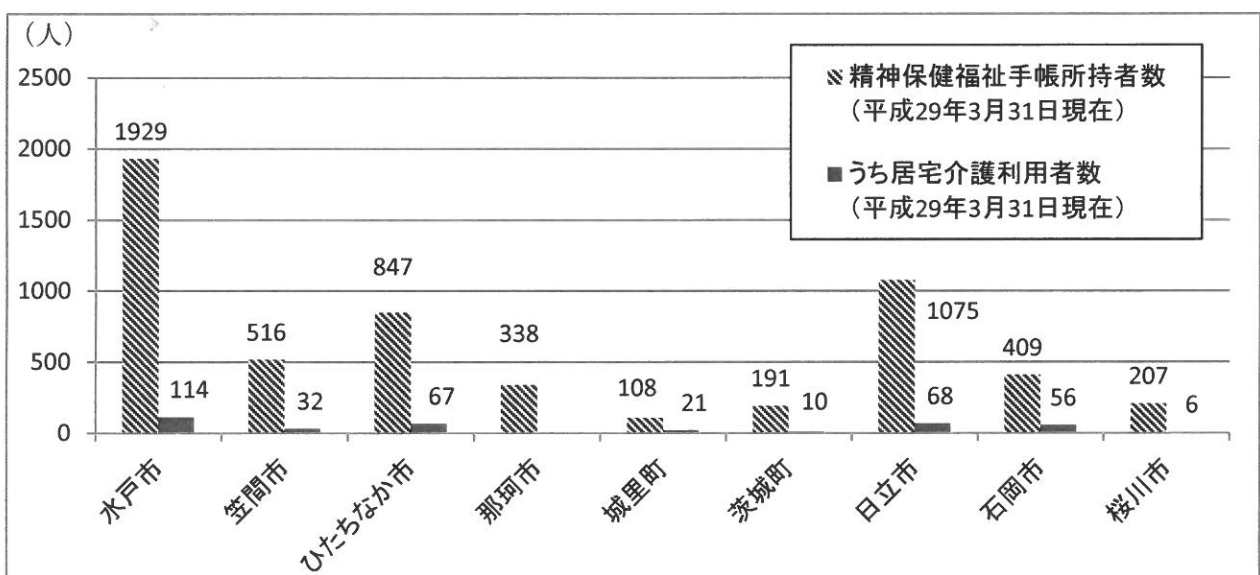


図1：登録ユーザー居住市町村の精神保健福祉手帳所持者数と居宅介護（ホームヘルプ）利用者数
注）データの無いところは、回答不可との返答